

北陸農政局「食育月間」

令和3年度「食育トークイベント」～過去から現在、未来へつなぐ取組～ 概要

○開催日時：令和3年6月29日（火曜日）14：00～16：00

○開催場所：北陸農政局 1階 第3会議室（Zoom 配信）

○参加人数：9名

会場5名（有識者3名、石川県、北陸農政局）

オンライン4名（新潟県、新潟市、富山県、福井県）

オンライン一般視聴回線数71回線

（1回線を複数人で視聴いただいた場合もあります）

本イベントは、コロナ禍に配慮し、会場参加とオンラインを活用して開催し、その模様をお申込みいただいた多くの視聴者の皆様へオンライン（Zoom）でライブ配信を行った。

【基調講演】「行動する『食育』」

〈金沢学院大学 栄養学部学部長 川村 美笑子 氏〉

講演では、まず今年3月に策定された第4次食育推進基本計画の重点事項及び改定の背景について説明があった。

また、以前から学生全員がパソコンを用意して入学するということを実施していたため、コロナ禍で急遽、遠隔授業となっても問題なくスムーズに実施できたことなどについて紹介していただいた。

最後に、未来へつなぐ取組として、「学びの創出」、「デジタルトランスフォーメーション（DX）」、「協働」についての説明があった。



講演を行う川村学部長

【トークセッション】

〈北陸学院大学 短期大学部 食物栄養学科

准教授 田中 弘美 氏〉

田中先生からは、ミッション食育グループの食育活動の取組について紹介していただいた。

「いいじい食育」とは、金沢弁の「いいじい」と英語の「easy」を掛けた言葉で、簡単に食育を楽しみましょうの意味。幼児や小学生、若い世代を対象に調理実習を通して和食の食文化に関心を持ってもらい、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を受け継いでもらうよう取組を進めているとのことがあった。



食育の取組を紹介する田中准教授

〈消費者支援ネットワークいしかわ

理事 青海 万里子 氏〉

青海理事からは、消費者支援ネットワークいしかわの活動紹介とキッチン環境問題の交差点とのお話があった。例えば、買い物の時は生産者のことや食品ロスのこと、料理を作って食べる時は水やエネルギーのこと、片づける時はゴミや排水の問題等がある。食育は入口から出口までの色々な課題を考えるとともに、それぞれの年代に応じた食育も必要であり、もっと大きな括りの中で食育が展開できないか、とのお話があった。



消費者視点からお話する青海理事

〈新潟県 福祉保健部 健康づくり支援課 (Zoom 参加)〉

「健康立県ヘルスプロモーションプロジェクト」に令和元年度から取り組んでおり、特に食環境の整備を重点的に取り組んでいる。スーパーマーケットと連携し、総菜に主菜、副菜が分かるようにするなど、教育に繋がるような形で食環境整備を進めていくことに力を入れている。

〈新潟市 農林水産部 食と花の推進課 (Zoom 参加)〉

第4次新潟市食育推進計画の策定に向けて議論を進めている。若い世代の食への課題が多いため、大学生をターゲットにした取組として、学生考案レシピ集の作成や「にいがたエコレシピコンテスト」、大学と連携し新潟市の農業の魅力や高齢化など様々な課題を知ってもらい、理解を深めてもらうための取組を行っている。

〈富山県 農林水産部 農林水産企画課 (Zoom 参加)〉

富山県は、学校給食での県産食材の活用を進めている。令和元年度から県内の野菜や果物を扱う青果市場にコーディネーター役を担ってもらい、県産食材の情報提供や活用提案をしてもらっている。今後も市町村域を超えた県産食材の活用を進めることで、富山の食について理解を深められるような食育を進めていきたい。

〈石川県 健康福祉部 少子化対策監室 母子保健グループ (会場参加)〉

石川県では19の関係部署と連携しながら食育を進めている。毎年、食育月間において、19階の展望ロビーで食育の展示会を行っている。今年度は、第3次食育推進計画の最終年度となるため、次期計画の策定に当たっては、国の第4次食育推進基本計画の動向や石川県ならではの実情を踏まえながら検討することとしている。

〈福井県 農林水産部 流通販売課 (Zoom 参加)〉

福井県では「ふくい食育リーダー」制度があり、各団体からの依頼に基づき人材を派遣し、食育講座を開催している。

また、従業員の健康管理に食育や地産地消を取り入れて積極的に取り組む企業を「ふくい食育推進企業」として登録。

小中学校における農業体験等への経費の支援も行っている。「全国高校生食育王選手権大会」は平成19年度から毎年開催している。(令和2、3年度は決勝大会をオンライン形式で開催)